

✕

がん検診を受けよう

がんは私たちにとって、とても身近な病気です。進行する前の初期段階で発見できれば治る可能性が高い病気になってきています。

早期のがんは自覚症状が出にくいので、自覚症状がなくても定期的に検診を受けることが大切です。

検診により早期発見！

数年～数十年 → 1cm 早期がん (症状がない) → 1～2年 → 2cm (症状が出てくる) → がん細胞が急激に増殖

～検診受診のメリット～

- ・がんになる前の病変を見つけて、がんにかかることを防ぐことができます。
- ・症状が出る前にがんを見つけて、治療にかかる負担を少なくすることができます。

日本人が一生のうちに
がんと診断される確率

男性 61.1%
女性 50.1%
2人に1人

(国立がん研究センター がん情報サービス
「がん統計」2023による)

🔍 自分が受けられる「がん検診」はどれか見てみましょう！

職場などでがん検診を受ける機会のないかたが受診することができます。＊1

年間予定表

市HP

検診の種類 対象年齢	2年に1度		2年に1度			
	胃がん(カメラ) ＊2	胃がん(バリウム) ＊2	大腸がん	結核・肺がん	子宮頸がん	乳がん
20～24歳	—	—	—	集団	個別・集団	—
25～34歳	—	—	—	集団	個別・集団	—
35～39歳	—	個別・集団	—	集団	個別・集団	—
40～49歳	—	個別・集団	個別	個別・集団	個別・集団	個別・集団
50歳以上	個別	個別・集団	個別	個別・集団	個別・集団	個別・集団
自己負担 (個別) ＊3	5,000円	3,000円	700円	1,500円	2,000円	約1,000円～ 6,000円 ＊4
自己負担 (集団) ＊3	—	1,000円	—	300円	700円	40歳～49歳 2,500円 50歳以上 2,000円
検査内容	先端にカメラがついたチューブで、胃内部を観察する検査	レントゲンで胃の小さな病変も映し出す検査	便を取る検査	胸のレントゲンにより肺を撮影する検査	大きめの綿棒で子宮の入り口の細胞を軽くこすり取る検査	マンモグラフィで乳房を撮影する検査

＊1 検診部位の治療中、手術歴のあるかたや自覚症状のあるかたは検診ではなく、医療機関を受診してください。

＊2 令和7年度に胃カメラ検診を受診したかたは受診できません。

＊3 70歳以上、生活保護世帯、住民税非課税世帯は無料です。生活保護世帯、住民税非課税世帯は事前手続が必要です。

＊4 医療機関によって金額が異なります。詳しくは市ホームページをご覧ください。お問い合わせください。